

「生きる力を取り戻す」をモットーに

社団法人被害者サポートセンターおかやま VSCO（岡山県岡山市）

被害者の自己決定を尊重

被害者サポートセンターおかやま VSCO
（Victim Support Center Okayama）（以下、
VSCO）は、平成 15 年に任意団体「被害者サポ
ートセンターおかやま」として発足、平成 18
年には岡山県知事から社団法人としての設立許
可を受け、現在に至る。また、岡山県公安委員
会から「犯罪被害者等早期援助団体」の指定を
受けることを目指し、事件直後の混乱期におけ
る危機介入にも積極的に取り組んでいる。

VSCO では、被害者が「生きる力を取り戻す」
をモットーに掲げ、そのために「被害者に 2 次
被害を与えない」ことに力を注いでいる。

「『生きる力を取り戻す』ことの第一歩とし
て、被害者の自己決定を尊重することが大切で
す。支援員の考えや善意を押し売りすることな
く、適切な情報を提示することを心がけていま
す」（森さん）。

性犯罪被害者が声を上げられる社会を

また、全国の民間支援団体の中でも性的被害
相談・支援の割合が高いことが特徴である。平
成 21 年中の相談内容では、犯罪被害相談のうち
約 30%が性的被害相談となっている（犯罪被害
286 件中、性的被害が 86 件）。「事件後、性犯



専務理事 森陽子さん



事務局長 岸本保さん

罪被害者は自尊心を失います。また、私は汚れている、生きている価値が無い、どうなっても良い、という感情に陥りがちです」（森さん）。しかし、社会の性犯罪被害に対する理解は浅く、「私は性犯罪被害を受けました、だから、助けて」と声をあげられる被害者は非常に少ないという。

「ある生徒が、授業中にフラッシュバック（突然、被害時の様子を鮮明に思い出してしまう事）にあいました。首を絞められたこと等が、カラーでコマ送りのように次から次に目の前に浮かんできます。また、『殺すぞ』等といった加害者の言葉も耳に聞こえてきます。全身から脂汗は出て、気が付いたら髪の毛を引き抜いていたそうです。そのような状態の中で、学校の養護室でメンタルクリニックに行きたいと言ったら、『あなた精神病院に行ってるの?』と、また、部活の先生には、「お前の精神が弱く、事件の事を忘れないからいけない。病院に行く必要は無い」と言われたそうです。学校も社会も、性犯罪被害やメンタルケアに対する理解が無い人が多すぎ、二次被害を受けた被害者は、ますます自分の殻に閉じこもってしまいます」（森さん）。

VSCO では、性犯罪被害者が少しでも声を上げやすい社会にするため、行政への陳情、性犯罪被害者のメッセージパネルの展示、自助グループの運営等、様々な活動を行っている。また、性犯罪被害者の中には、周囲の協力も得られず、月々の病院費用も捻出出来ない方もいるため、当座の資金として使えるように、平成 20 年 5 月に性犯罪被害者基金を設立した。



募金箱

平成 20 年 6 月～平成 22 年 1 月末までの支給額は 53,750 円となっており、内訳は全て診察代、薬代等の医療費用だけであるという。「性犯罪被害は、精神的ダメージが原因で、会社を休む、または辞めなければならない事も多く、経済的なダメージに直結する。休暇の保障、経済的保障、精神的ケアの保障、居住場所の保障が性犯罪被害支援の 4 本柱だと思っています」（森さん）。自宅内で性犯罪被害を受けた方も多く、また地域住民からの 2 次被害を防ぐためにも、居住場所を変えることは大切なことであるという。基金への募金が増えれば、医療費だけではなく、引っ越し費用の援助等も行えるようになる。

性犯罪被害当事者の自助グループを運営

VSCO では、性犯罪被害当事者を対象とするものと、殺人・交通事故遺族を対象とする2つの自助グループを運営している。「性犯罪被害とは、人間の尊厳を踏みにじられ、また人権を奪われたように感じるものです。被害を受けた方の中には、魂の殺人であるおっしゃる方もいます。死の恐怖を伴って性犯罪被害を受けた彼女たちに立ちふさがれる精神的ショック、社会で孤立して生きていかななくてはならない辛さは、殺人・交通被害者遺族の最愛の人を突然亡くされたという喪失体験を伴う悲しさとはまた違ったものです。そのため、性犯罪被害の当事者と殺人・交通事故遺族とで分けて自助グループを行っているのです」（森さん）。

性犯罪被害の当事者を対象とする自助グループは、毎月1回開催される。参加者から、「自分の思いを吐き出して、またみんなの意見を聞きながら気持の整理をつけていくには、最低でも月1回の会が必用」という意見があったのだという。会では、プログラムやルールは設けておらず、また、相談員がファシリテーターを行うといった事もない。「自分の気持ちを出し合える場の提供を基本理念にしています。時には長い沈黙もありますが、その沈黙も必要なことの1つなのです」（相談員）。



相談支援員



相談支援員

現在の社会には、スカートの丈が短かったから、髪の毛の色が茶色いから、被害を受けたのではないかといった偏見が根強く存在し、そのため、誰にも言えない思い抱えて独り苦しんでいる被害者がとても多いという。「墓場まで持っていこうと思っていた自分の思いを自助グループで話すことが出来て、とても気持ちが楽になりました、と話してくれる方もいらっしゃいます」（森さん）。

性犯罪被害当事者の自助グループを運営する民間被害者支援団体は、全国的にも非常に少ない。「被害者に沿った支援を行っていけば、性犯罪被害当事者を対象とする自助グループがいかに必要かという事も解ってくるものだと思います。各都道府県においても、需要は感じているのではないのでしょうか」（森さん）。

ある被害者は、自助グループによって精神状態が回復に導れ、現在は芸術を通して性犯罪被害者の現状を発信する活動を行っている。「生きる力を取り戻す」という VSCO のモットーが実を結んでいる。

連絡先

社団法人被害者サポートセンターおかやま VSCO

電話：086-223-5564 FAX：086-223-5564

住所：700-0818 岡山市北区蕃山町 1-20

岡山県開発公社ビル 1 階

URL：http://vsco.info/